

〈学級集団からのサインに敏感になるために〉

いじめについては、学級集団等、子どもたちが日常多くの時間を過ごしている集団の中で生起する。子ども同士のトラブル、人間関係のもつれ、ちょっとしたコミュニケーションの不整合などが、いじめに発展する場合もある。

日常の学級集団の状況をよく見ていれば、いじめに発展する前に、その兆候に気づくことができる。

- 休み時間等に固定化した少人数のグループに分かれる傾向がある。
 - 学校の行き帰りや休み時間等にいつも一人で過ごしている子がいる。
 - 班活動や集団行動のときなどに一人でいる。
 - 学級の子どもたちが特定の子どもの失敗や規則違反に敏感に反応する。
 - 昼食時などの子どもたちの会話に、度を過ぎたふざけや、からかうような笑いが頻繁にみられる。
 - ニックネームやあだ名が偏って使用されている。
 - 子どもどうしの会話で、言葉がきつくなってきている。
 - 持ち物等に流行が見られたり、持ち物の自慢をしたりする子どもが増えている。
 - まじめに取り組むことをひやかすような雰囲気生まれている。
 - 授業中にあまり手を挙げない子どもが増えた。
 - 学校のルール等を守らない雰囲気ができている。
 - 教職員に距離を置く子どもが増えた。
- ◎ 上記のチェックポイントに当てはまる項目があっても、必ずいじめの状況があるとは限らないが、これらのチェックポイントに留意して集団づくりを進めることで、いじめの状況にいたる前に防止することができる。
- ◎ 学級集団というのは、言うまでもなく、一人ひとりの子どもの集まりである。集団に上記のような傾向が見られたときは、漠然と学級集団を見るのではなく、誰と誰がつながり、誰が一人で過ごしているか、というような必ず構成している一人ひとりの子供の状況をよく見ることが大切である。